

4.28 十勝ブロック

4.28.1 広域化・集約化の進捗状況

平成9年(1997年)【旧計画当時】(面積:10,828km²)

令和3年(2021年)4月【現状】(面積:10,828km²)

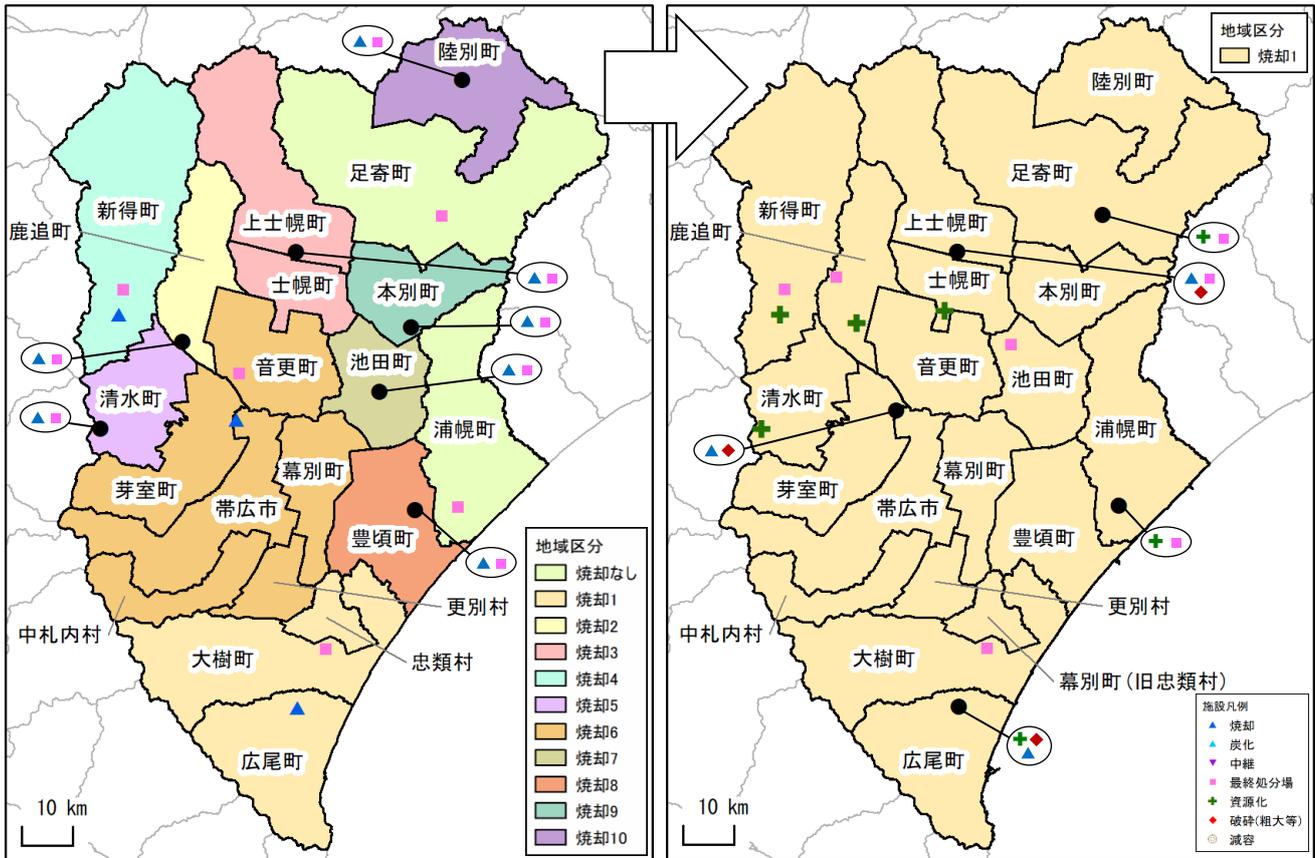


図 4.28-1 十勝ブロックの施設配置及び広域化・集約化の進捗状況

4.28.2 旧計画の評価と課題

旧計画策定時のブロック内の焼却処理の状況は、3つの一部事務組合による集約処理と、7町で単独処理が行われており、2町では焼却せず直接埋立処理が行われていた。その後、ブロック内での集約が進み、現在はブロック内の焼却施設は3施設となっている。現在、十勝圏複合事務組合では令和9年(2027年)の供用開始に向けて新たな焼却施設を整備中であり、十勝ブロック全域の焼却処理が1施設に集約される方針が示されている。

処理量の推移(表 4.28-1、図 4.28-2)として、旧計画策定時の平成8年(1996年)と令和元年(2019年)を比較すると、排出量は約23%減少し、資源化量は5倍以上に増加、埋立量は1/5以下に減少している。令和元年(2019年)の資源化率は約25%で、全道平均(約23%、図 2.1-1)を上回り、最終処分率は約14%と全道平均(約17%、図 2.1-1)を下回っている。

これらのことから、旧計画の基本方針は概ね達成されたと評価できる。

表 4.28-1 処理量の推移(十勝) (単位:t)

処理区分	H8(1996)	H12(2000)	H17(2005)	H24(2012)	R1(2019)
排出量	141,547	152,906	132,793	113,483	108,600
焼却量	106,599	104,557	78,934	75,586	75,801
資源化量	4,913	27,149	38,806	29,815	26,885
埋立量	48,274	35,496	25,444	17,761	15,617

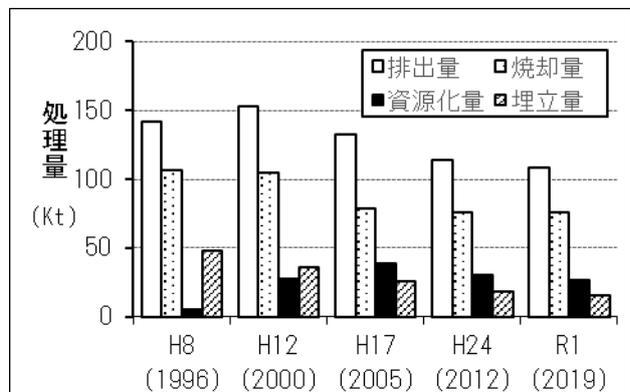


図 4.28-2 処理量の推移(十勝)

4.28.3 人口及び処理量の推移、将来推計

ブロック内の人口は、旧計画策定時から令和元年(2019年)までの間に5%減少しており、今後、令和22年(2040年)までにはさらに15%の減少が予測されている。ごみの排出量もそれに比例して減少すると考えた場合、令和22年(2040年)の焼却量は64,258tの見込みとなる。

表 4.28-2 人口、処理量の推移、推計(十勝)

項目	H8(1996)	R1(2019)	R12(2030)	R22(2040)
人口	359,833	340,088	314,077	288,298
排出量	141,547	108,600	100,294	92,062
焼却量	106,599	75,801	70,004	64,258

4.28.4 主要施設の設置状況と更新時期

ごみ処理施設の更新期を稼働後25年以降と仮定し、更新期直前の5年を早期更新について検討する期間とした場合、現状十勝ブロックにある主要な中間処理施設の更新期は表4.28-3に示すとおりとなる。

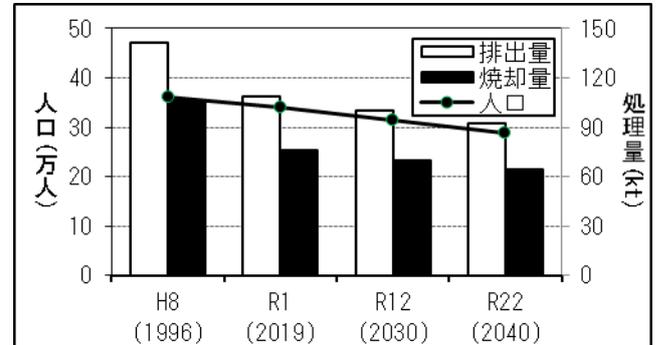


図 4.28-3 人口、処理量の推移、推計(十勝)

現在稼働中の焼却施設3施設は、何れも更新期にさしかかっているが、令和9年(2027年)に更新される予定の十勝圏複合事務組合の施設へ集約される方針となっている。ブロック内の資源化施設も、更新の早期検討期ないし更新期にある施設が多数みられ、更新の検討に当たっては市町村の間での集約等、より効率的な処理体制による更新を図ることが望ましい。

表 4.28-3 主要な中間処理施設の更新検討時期

事業主体	種別	使用開始年度	年処理量 R1(2019) t/年	処理能力 t/日	更新基準年	更新時期				
						←: 早期検討期 →	←: 更新期 →	R3 2021	R7 2025	R12 2030
南十勝複合事務組合	焼却(パッチ)	1993	3,564*	28.0	2018	★十勝圏複合事務組合に集約予定				
南十勝複合事務組合	資源化(破碎、選別等)	1998	750	9.0	2023	←: 早期検討期 → ←: 更新期 →				
南十勝複合事務組合	破碎(粗大等)	1993	538	10.0	2018	←: 早期検討期 → ←: 更新期 →				
十勝圏複合事務組合	焼却(全連続)	1996	70,302*	330.0	2021	★更新、供用開始予定				
十勝圏複合事務組合	破碎(粗大等)	1996	12,150	110.0	2021	←: 早期検討期 → ←: 更新期 →				
北十勝2町環境衛生処理組合	焼却(パッチ)	1997	1,935	15.0	2022	★十勝圏複合事務組合に集約予定				
北十勝2町環境衛生処理組合	破碎(粗大等)	2005	—	46.5	2030	★十勝圏複合事務組合に集約予定				
土幌町	資源化(破碎、選別等)	1999	638	5.0	2024	←: 早期検討期 → ←: 更新期 →				
鹿追町	資源化(破碎、選別等)	2009	—	66.0	2034	★十勝圏複合事務組合に集約予定				
鹿追町	資源化(堆肥化)	2004	239	2.5	2029	←: 早期検討期 → ←: 更新期 →				
新得町	資源化(破碎、選別等)	1999	404	2.0	2024	←: 早期検討期 → ←: 更新期 →				
清水町	資源化(破碎、選別等)	1993	618	0.7	2018	←: 早期検討期 → ←: 更新期 →				
足寄町	資源化(破碎、選別等)	2002	434	20.0	2027	←: 早期検討期 → ←: 更新期 →				
浦幌町	資源化(破碎、選別等)	2001	341	14.0	2026	←: 早期検討期 → ←: 更新期 →				

※: 幕別町(旧忠類村)分の処理量は、幕別町の処理量として扱い、十勝圏複合事務組合の処理量に含まれ、南十勝複合事務組合の処理量に含まれない。

4.28.5 計画期間内の方針

焼却については広域化に向けた施設整備が進行中であり、現在の計画を予定通り推進することを基本とする。その上で、資源化施設についても更新期の重なる市町村等の間で集約について協議、検討を進める。

4. 29 釧路ブロック

4. 29. 1 広域化・集約化の進捗状況

平成 9 年(1997 年)【旧計画当時】(面積: 5, 574km²)

令和 3 年(2021 年)4 月【現状】(面積: 5, 574km²)

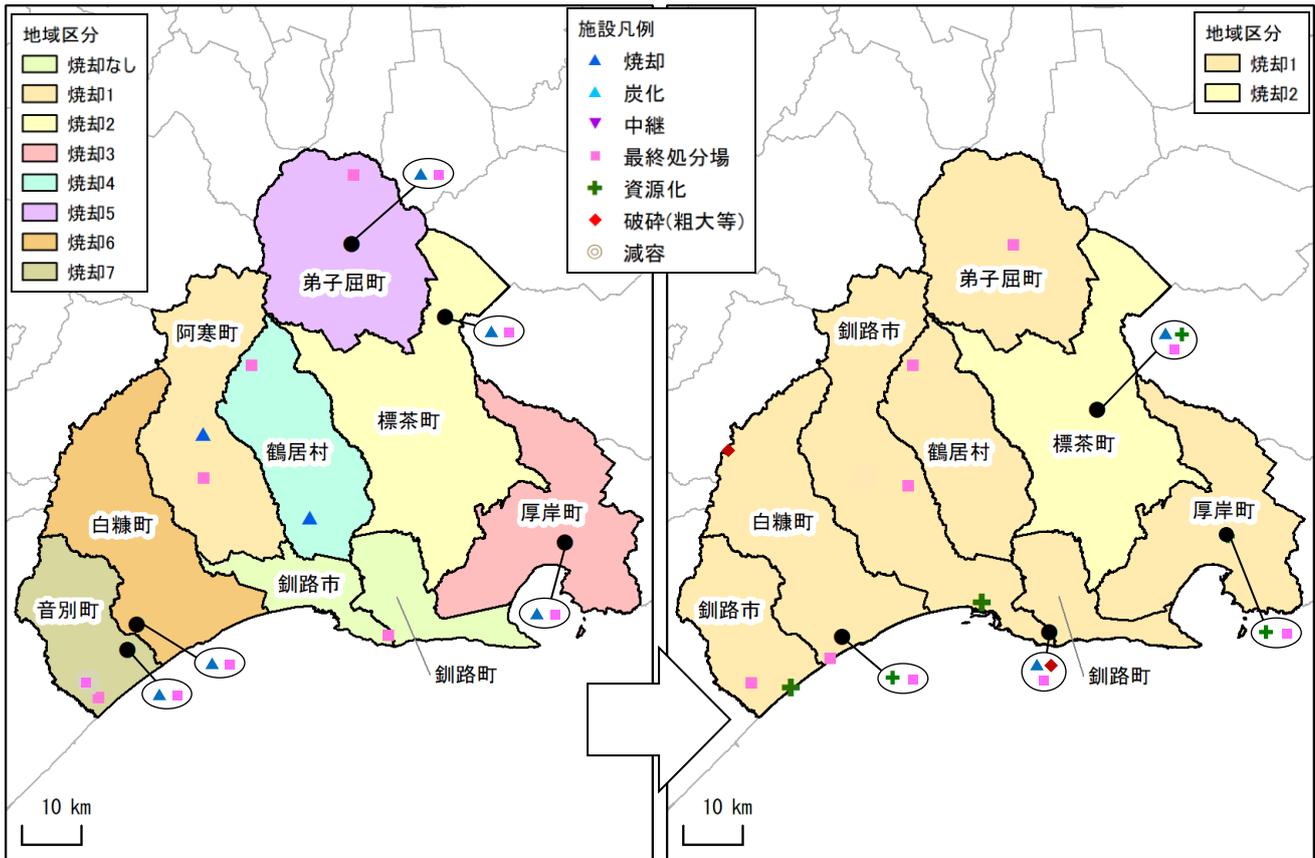


図 4.29-1 釧路ブロックの施設配置及び広域化・集約化の進捗状況

4. 29. 2 旧計画の評価と課題

旧計画策定時のブロック内における焼却処理は、7 町村で単独処理、2 市町では焼却せず直接埋立処理となっていた。その後、釧路広域連合の結成と市町村合併による全連続施設への集約が 6 市町村で進められ、現在のブロック内の焼却施設は標茶町の准連続施設と合わせ 2 施設となっている。

また、釧路ブロックは道内においても特にエゾシカが関係する交通事故、列車支障発生件数が多い地域であり、釧路支庁(現釧路総合振興局)及び構成市町村の要請を受けた釧路広域連合は、焼却施設と同時にエゾシカ処理の広域焼却施設を設置し対応してきた。

処理量の推移(表 4. 29-1、図 4. 29-2)として、旧計画策定時の平成 8 年(1996 年)と令和元年(2019 年)を比較すると、排出量は約 36%減少し、資源化量は 3 倍以上に増加、埋立量は約 1/12 に減少している。令和元年(2019 年)の最終処分率は約 12%と全道平均(約 17%、図 2. 1-1)を下回っているものの、資源化率は約 20%で、全道平均(約 23%、図 2. 1-1)よりやや低くなっている。埋立量の面では旧計画の基本方針に沿った進捗がみられるものの、准連続の焼却施設が残っている点と、資源化率がやや低い点がブロックの課題となっている。

表 4.29-1 処理量の推移(釧路) (単位: t)

処理区分	H8(1996)	H12(2000)	H17(2005)	H24(2012)	R1(2019)
排出量	138, 838	147, 496	113, 584	98, 525	88, 471
焼却量	13, 300	14, 218	23, 427	70, 310	65, 813
資源化量	5, 358	10, 422	17, 895	20, 717	17, 731
埋立量	122, 091	124, 478	73, 584	12, 318	10, 229

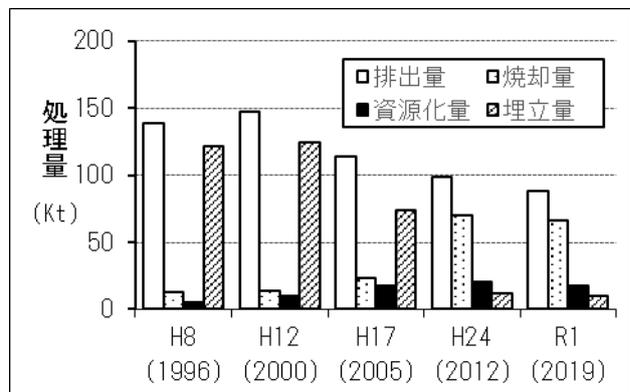


図 4.29-2 処理量の推移(釧路)

4.29.3 人口及び処理量の推移、将来推計

ブロック内の人口は、旧計画策定時から令和元年(2019年)までの間に約2割減少しており、今後、令和22年(2040年)までにはさらに約3割の減少が予測されている。ごみの排出量、焼却量もそれに比例して減少すると考えた場合、令和22年(2040年)の焼却量は46,522tの見込みとなる。

表 4.29-2 人口、処理量の推移、推計(釧路)

項目	H8(1996)	R1(2019)	R12(2030)	R22(2040)
人口	277,778	224,888	188,999	158,968
排出量	138,838	88,471	74,352	62,538
焼却量	13,300	65,813	55,310	46,522

4.29.4 主要施設の設置状況と更新時期

ごみ処理施設の更新期を稼働後25年以降と仮定し、更新期直前の5年を早期更新について検討する期間とした場合、現状釧路ブロックにある主要な中間処理施設の更新期は表4.29-3に示すとおりとなる。

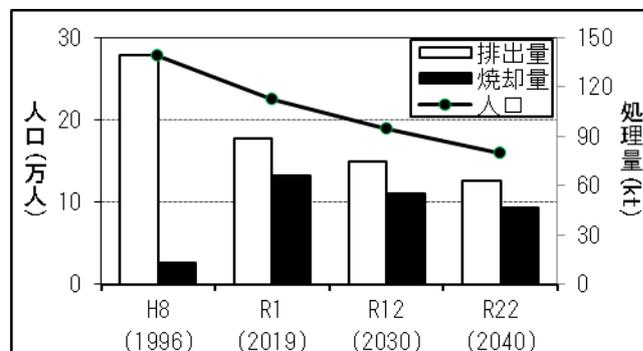


図 4.29-3 人口、処理量の推移、推計(釧路)

釧路広域連合の焼却施設は、令和2年(2020年)より基幹改良工事を実施中であり、令和20年(2038年)

頃までの稼働が予定されている。標茶町の焼却施設は平成30年(2018年)に新設された施設で、30年程度の稼働が予定されている。ブロック内の資源化施設は、更新の早期検討期ないし更新期にある施設が複数みられるため、更新に合わせ、市町村等の間での集約による効率的な処理体制と、資源化率の向上に向けた検討、協議が進められることが望ましい。

表 4.29-3 主要な中間処理施設の更新検討時期

事業主体	種別	使用開始年度	年処理量 R1(2019) t/年	処理能力 t/日	更新基準年	更新時期					
						← : 早期検討期	← : 更新期	R3 2021	R7 2025	R12 2030	R17 2035
標茶町	焼却(准連続)	2018	1,794	8.0	2043						←
標茶町	資源化(破碎、選別等)	1994	174	2.0	2019	←	←	←	←	←	
釧路広域連合	焼却(全連続)	2006	64,019	240.0	2038			★基幹改良	←	←	←
釧路市	資源化(破碎、選別等)	1994	6,998	34.0	2019	←	←	←	←	←	
釧路市	資源化(破碎、選別等)	1999	102	4.7	2024	←	←	←	←	←	
釧路市	破碎(粗大等)	1999	5,447	80.0	2024	←	←	←	←	←	
厚岸町	資源化(破碎、選別等)	2007	86	4.0	2032			←	←	←	←
厚岸町	資源化(破碎、選別等)	1977	553	5.0	2002			★以降検討			
白糠町	資源化(破碎、選別等)	1995	127	2.8	2020	←	←	←	←	←	
白糠町	破碎(粗大等)	1995	355	5.0	2020	←	←	←	←	←	

4.29.5 計画期間内の方針

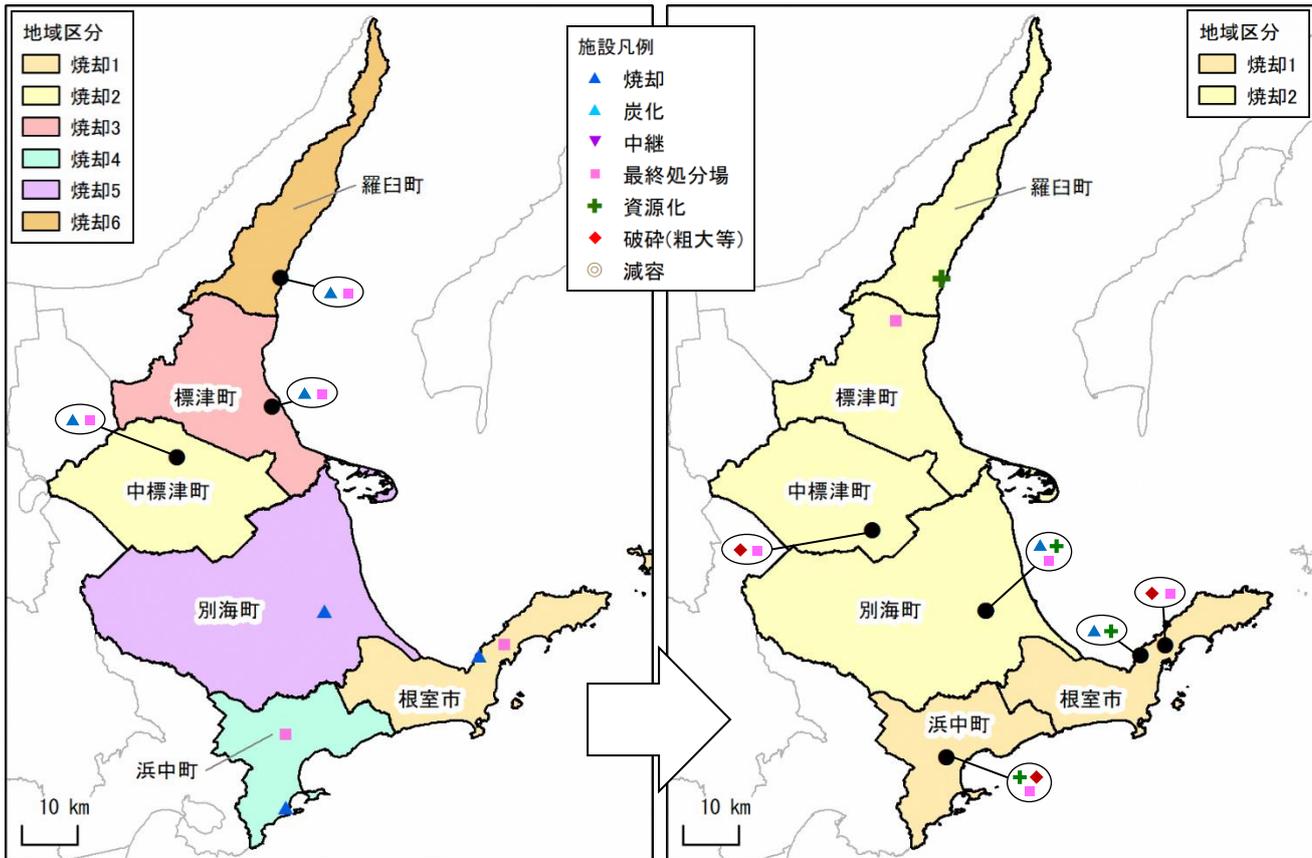
焼却施設は、現行施設の稼働が継続されると見込まれており、現行の処理体制継続を基本とする。資源化施設については更新期の重なる市町村等の間で集約について協議、検討を進める。

4.30 根室ブロック

4.30.1 広域化・集約化の進捗状況

平成9年(1997年)【旧計画当時】(面積:3,957km²)

令和3年(2021年)4月【現状】(面積:3,957km²)



注) H9の別海町にあった最終処分場は、位置不明のため図示していない

図 4.30-1 根室ブロックの施設配置及び広域化・集約化の進捗状況

4.30.2 旧計画の評価と課題

旧計画策定時のブロック内における焼却処理は、6市町でそれぞれ単独処理となっていた。その後、根室北部廃棄物処理広域連合の全連続ガス化熔融施設と根室市の准連続施設に分かれて集約され、現在のブロック内の焼却施設は2施設となっている。

処理量の推移(表 4.30-1、図 4.30-2)として、旧計画策定時の平成8年(1996年)と令和元年(2019年)を比較すると、排出量は約26%減少し、資源化量は約8倍に増加、埋立量は約60%減少している。令和元年(2019年)の最終処分率は約22%と全道平均(約17%、図 2.1-1)をやや上回り、資源化率も約22%と全道平均(約23%、図 2.1-1)をやや下回っている。

まだブロック内での焼却処理一本化には至っておらず、准連続の施設が残っている点と、最終処分率、資源化率とも旧計画の基本方針に沿った進捗がみられるものの全道平均を下回る点が、ブロックの課題となっている。

表 4.30-1 処理量の推移(根室) (単位:t)

処理区分	H8(1996)	H12(2000)	H17(2005)	H24(2012)	R1(2019)
排出量	42,496	42,518	39,522	33,515	34,130
焼却量	27,227	26,158	21,895	22,495	21,810
資源化量	968	2,280	7,012	8,580	7,364
埋立量	18,919	17,674	13,009	4,604	7,437

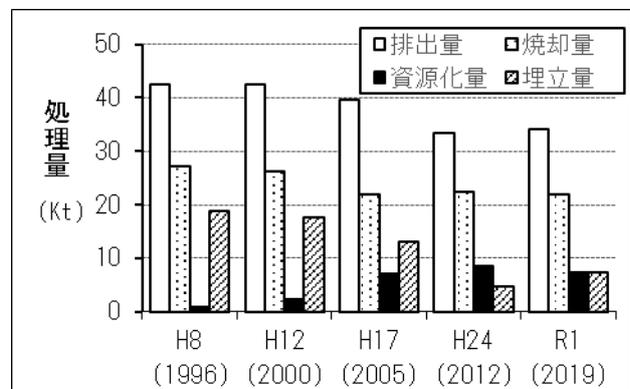


図 4.30-2 処理量の推移(根室)

4.30.3 人口及び処理量の推移、将来推計

ブロック内の人口は、旧計画策定時から令和元年(2019年)までの間に約17%減少しており、今後、令和22年(2040年)までにはさらに約3割の減少が予測されている。ごみの排出量、焼却量もそれに比例して減少すると考えた場合、令和22年(2040年)の焼却量は15,073tの見込みとなる。

表 4.30-2 人口、処理量の推移、推計(根室)

項目	H8(1996)	R1(2019)	R12(2030)	R22(2040)
人口	97,292	80,915	66,794	55,919
排出量	42,496	34,130	28,174	23,587
焼却量	27,227	21,810	18,004	15,073

4.30.4 主要施設の設置状況と更新時期

ごみ処理施設の更新期を稼働後25年以降と仮定し、更新期直前の5年を早期更新について検討する期間とした場合、現状根室ブロックにある主要な中間処理施設の更新期は表4.30-3に示すとおりとなる。

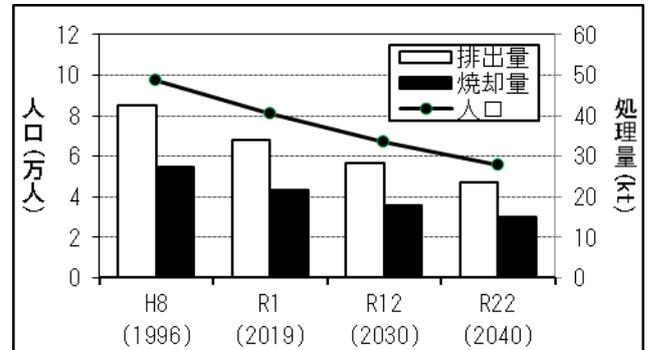


図 4.30-3 人口、処理量の推移、推計(根室)

根室市の焼却施設は、更新について用地選定などを検討中であり、令和10年(2028年)頃の供用開始が予定されている。根室北部廃棄物処理広域連合の焼却施設は、使用開始から15年が経過しており、今後10年程度の間には基幹改良、更新等の検討が必要になると考えられる。ブロック内の資源化施設は、今後10年以内に更新の早期検討期ないし更新期を迎える施設が複数みられる。更新に合わせ、市町村等の間での集約による効率的な処理体制と、資源化率の向上に向けた検討、協議が進められることが望ましい。

表 4.30-3 主要な中間処理施設の更新検討時期

事業主体	種別	使用開始年度	年処理量 R1(2019) t/年	処理能力 t/日	更新基準年	更新時期				
						← : 早期検討期		← : 更新期		
						R3 2021	R7 2025	R12 2030	R17 2035	R22 2040
根室市	焼却(准連続)	1981	10,102	100.0	2052	★更新予定				
根室市	資源化(破碎・選別等)	2004	2,091	22.0	2029	← : 早期検討期				
根室市	破碎(粗大等)	2012	429	2.4	2037	← : 更新期				
根室北部廃棄物処理広域連合	焼却(全連続)	2006	11,708	62.0	2031	← : 早期検討期				
根室北部廃棄物処理広域連合	資源化(破碎・選別等)	2004	—	—	2029	← : 更新期				
根室北部廃棄物処理広域連合	破碎(粗大等)	2004	—	9.1	2029	← : 早期検討期				
浜中町	資源化(破碎・選別等)	2000	560	2.2	2025	← : 更新期				
浜中町	破碎(粗大等)	2019	56	1.5	2044	← : 更新期				
別海町	資源化(破碎・選別等)	2001	339	3.0	2026	← : 早期検討期				
別海町	資源化(破碎・選別等)	2002	133	2.0	2027	← : 更新期				
別海町	破碎(粗大等)	1982	691	20.0	2007	← : 更新期				
中標津町	破碎(粗大等)	2002	776	10.0	2027	← : 早期検討期				
羅臼町	資源化(破碎・選別等)	1978	2,260	4.0	2003	← : 更新期				

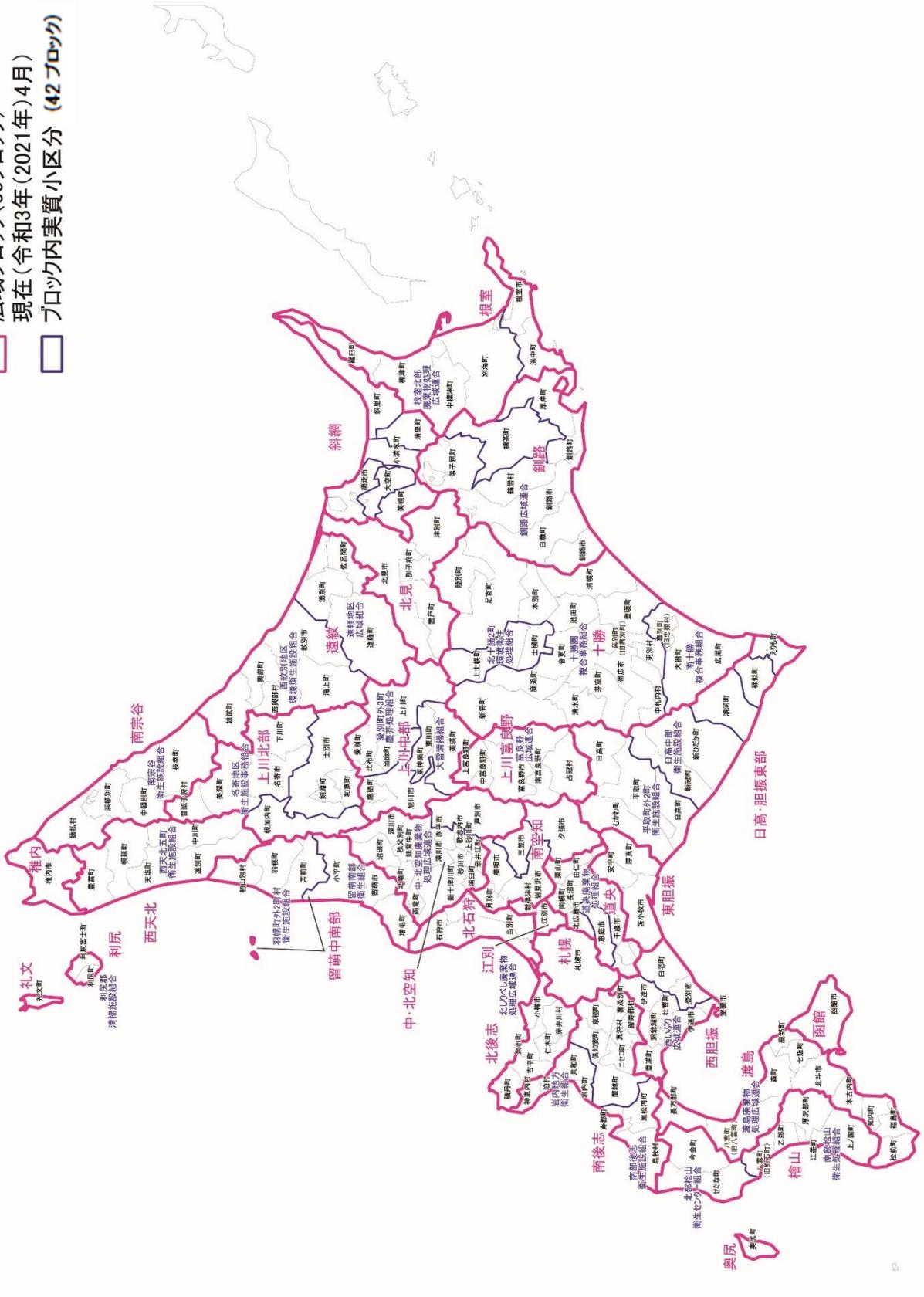
4.30.5 計画期間内の方針

現行2施設ある焼却施設は、それぞれ個別に更新等検討が進められているため、現行の処理体制を継続することを基本とするが、計画期間以降に集約を進める可能性や、更新期の重なる資源化施設の集約について協議、検討を進める。

4.31 広域ブロックの進捗と計画

旧計画策定時(平成9年(1997年))、現在(令和3年(2021年)4月)、本計画の計画期間終了後(概ね10年後)、全道の広域化ブロックを図4.31-1～図4.31-3に示す。また、将来に向けた「目指す姿」(10年後以降)について参考として図4.31-4に示す。

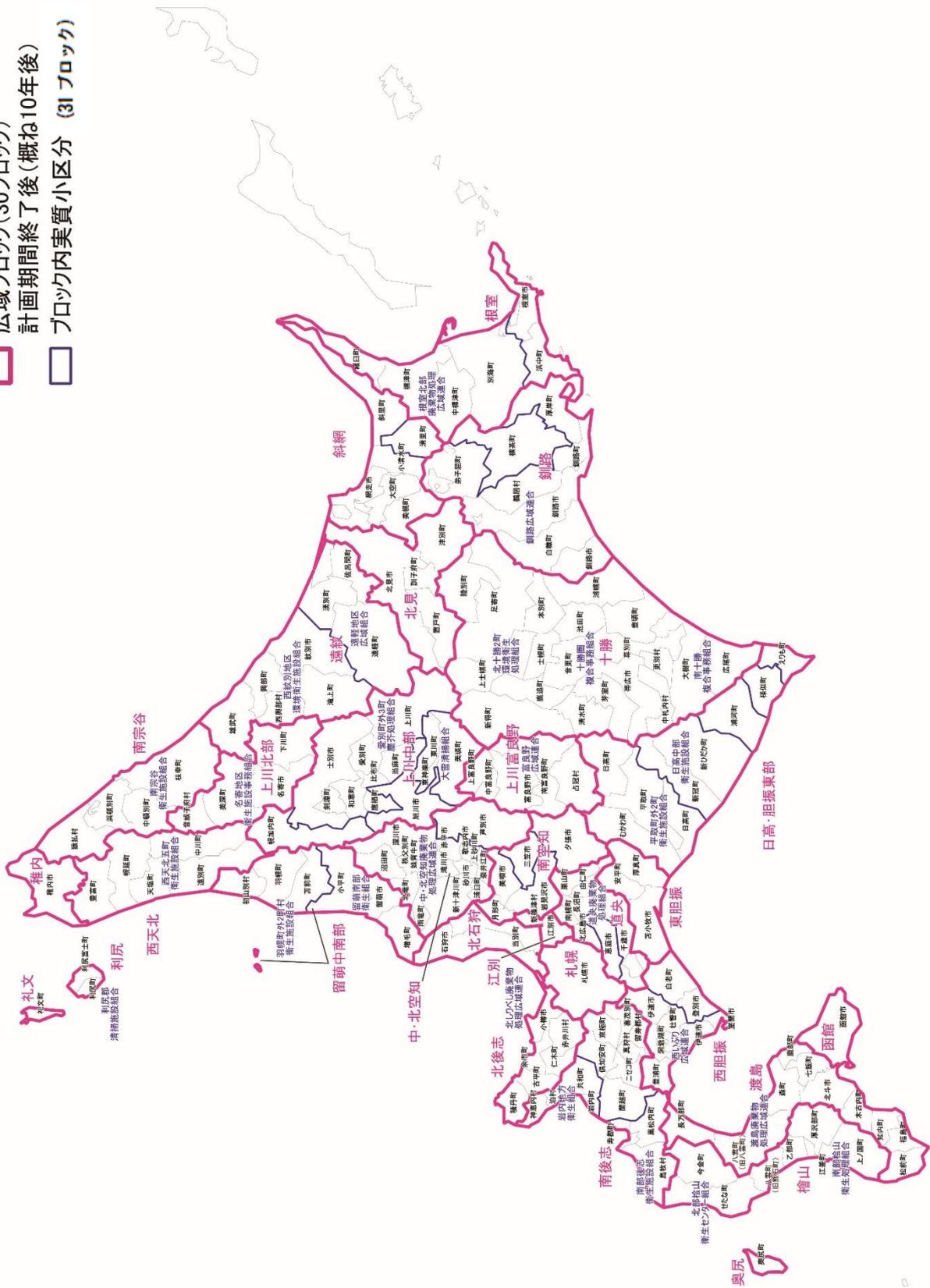
- 広域ブロック(30ブロック)
- 現在(令和3年(2021年)4月)
- ブロック内実質小区分(42ブロック)



※ 鷹栖町、土別市、和寒町、剣淵町の可燃ごみの一部は、愛別外3町塵茶処理組合の焼却施設で焼却

図 4.31-2 広域ブロック 現在(令和3年(2021年)4月)

- 広域ブロック(30ブロック)
- 計画期間終了後(概ね10年後)
- ブロック内実質小区分 (31ブロック)



※ 鷹栖町の可燃ごみの一部を旭川市の焼却施設で焼却

図 4.31-3 広域ブロック 計画期間終了後(概ね 10 年後)

